



Japanese Examined Parent Publication No. 47-40543

TOOL FOR CONTINUOUSLY TRANSFERRING AN ADHESIVE LAYER

[Translation of Pertaining Portion Cited from Specification]

Cited from Detailed Description: The present invention is related to an utterly new tool for continuously transferring an adhesive layer applied on a tape in a strippable state onto an adhesive layer receiving area of an article.

Claim 1: A tool for continuously transferring an adhesive layer comprising a driving pulley and a driven pulley, said tool being constructed such that a feed reel with a wound tape on which an adhesive layer is transferably formed is connected to the driving pulley, while a taken-up reel is connected to the driven pulley, respectively, and that the tape is guided from the feed reel to the taken-up reel with an intermediate area thereof exposed out of a frame, whereby a transfer operation of the adhesive layer being carried out at this position.

RECEIVED

APR 11 2002

TC 1700

BEST AVAILABLE COPY

⑩特許公報 ④公告 昭和47年(1972)10月13日

発明の数 1

(全2頁)

⑥接着層を連続的に転移する装置

⑦特 願 昭42-10098
⑧出 願 昭42(1967)2月28日
⑨発 明 者 金田 信一
八尾市山本町北3の19
⑩出 願 人 コクヨ株式会社
大阪市東成区大今里本町6の18
代 理 人 弁理士 大内俊治

図面の簡単な説明

図面は本発明の実施例を示すもので、第1図は一方の側枠を外した状態の平面図、第2図は内部構成を示す側面図、第3図は回転機構部の拡大断面図、第4図は本案に使用するテープの部分平面図である。

発明の詳細な説明

本発明はテープに剥離自在に設けた接着層を、貼着物の貼着個所に連続的に転移せしめる全く新規な装置に係るもので、これを以下図面について詳述すると、1は表裏両面をシリコン等の剥離容易剤で処理したテープ2の表面に、感圧性の接着層3をミリット4により区分して形成せしめ、このテープ2を捲設した送出りール、5はテープのみを捲き取る捲取りール、6は主動プーリー、7は主動プーリー6に対し、複数倍の回転をする従動プーリーで、送出りール1と主動プーリー6とはキーを設けた中空軸8により連結され、捲取りール5と従動プーリー7とは同様の中空軸9により連結されている。そしてこの中空軸8と9は2個の側枠から成る器枠10内に前後して配置され、側枠を繋結する1対のボルト軸11に回転自在に嵌挿されている。器枠10は先端に向つて狭く形成され、その先端は開口12してあり、この先端部に転子13が回転自在に、且その周面一部が稍突出するように設けてある。前記両プーリー6、7はベルト14により連結され、好ましく主動プーリー6の周面を粗面としてベルト14との摩擦を大にし、従動プーリー7の周面を比較的平滑にしてベルト14との摩擦を小にして滑りが生ずるように構成される。而して送出りール1からテープ2を引出し、転子13及び必要に応じて中間プーリー15を介して捲取りール5に導き、之に結着する。即ち第1図の状態に構成する。次いで器枠10を把持し、貼着物の貼着個所に転子13を圧接し、之を矢印方向に移動せしめると、テープ2は自動的に捲り出され、接着層3は貼着個所に転移すると同時に、送出りール1は矢印方向に回転するから、之と同軸の主動プーリー6は、従動プーリー7を回転し、之と同軸の捲取りール5も回転する。よつて接着層3が剥離された後のテープ2が捲取りール5に捲き取られる。使用当初は、送出りール1に対し、捲取りール5の周速度が速いので、両プーリー6の直径比を実際の使用状態に合せて設定すればよく、又使用経過に従つて両りールの周速度は上記と逆になるので、回転伝動機構に滑りが生ずるように設計すればよい。更にりールの交換が出来るように中空軸に之を取外し自在に連結することが好ましい。

上記は本発明の一実施例を示したもので、この構成に限定されるものではない。例えば転子13に代へ固定の弧状板でもよく、又両プーリー7をベルト連結ではなく中間アイドラーを使用してもよいことは勿論である。

本発明は叙上のように構成されているので、従来のように手によつて接着層の転移操作を行つていたものに比し、遙かに便利であると共に、乱りに接着層が手又は他の非貼着物に転移する恐れなく保管並びに取扱いが極めて容易で、而も接着層が正確に線引き出来る等種々の効果を奏し実用上極めて有益な発明である。

特許請求の範囲

1 本文に詳記したように、主動プーリーと従動プーリーとを備え、主動プーリーには、転移可能

(2)

特公 昭 47-40543

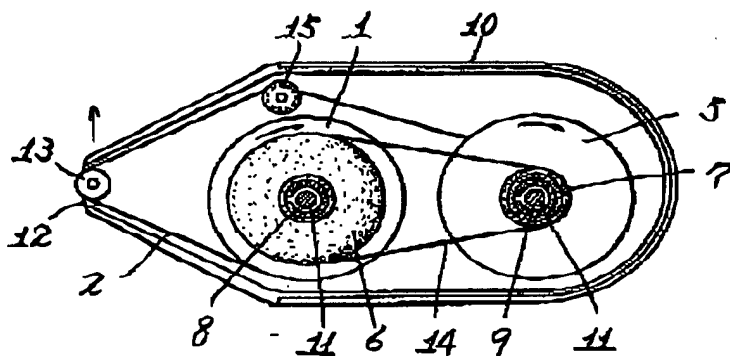
3

4

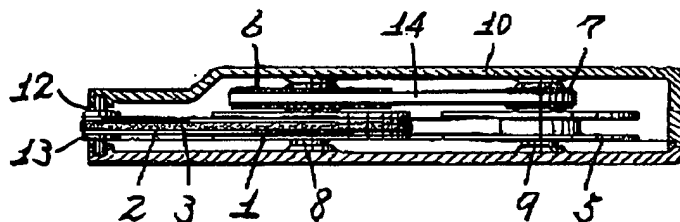
に接着層を形成したテープを捲取した送りリールを、従動プーリーには捲取リールを夫々連結し、テープを送りリールから導いて捲取リールに導き、

その途中を鉛筆外に露出せしめ、この位置で接着層の転移操作を行ふように構成したことを特徴とする接着層を連続的に転移する装置。

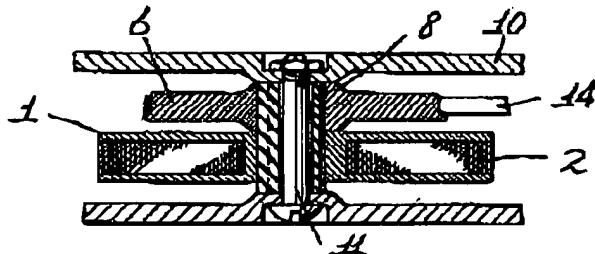
第1図



第2図



第3図



第4図



BEST AVAILABLE COPY

-152-